

## 令和6年度 第2回 館山市子ども・子育て会議 要録

1 委員会名 館山市子ども・子育て会議

2 日 時 令和6年9月24日(火)10:00～11:30

3 会 場 市役所本館2階会議室

4 出席委員 石渡委員長、中島副委員長、齋藤委員、中村委員、押元委員、高橋委員、田中委員、  
清宮委員、吉井委員、石垣委員、鈴木ひとみ委員、古谷野委員、土岐委員

5 事務局 教育部長、こども課長、副課長、副課長・家庭児童係長事務取扱、幼保係長  
子育て支援係長、黒川主事、佐藤主事

6 会議次第

1 開 会

2 議 事

(1)第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について

- ・現行計画の評価・点検結果の報告
- ・目標事業量及び計画骨子案の検討

(2)館山白百合こども園の幼保連携型認定こども園化について

3 その他(報告) 公立幼稚園の学区廃止について

4 質疑・応答

5 閉 会

## ■ 議事

### (1) 第3期子ども・子育て支援事業計画（こども計画）の策定について

- ・事務局（子育て支援係長）、株式会社ぎょうせい堀内研究員より概要説明

## <質疑応答>

### 【鈴木委員】

- ・第2期計画の振り返りについて、資料1の3ページ、凍結する事業として、いくつか載せられている。サポーター活動、子育て家庭避難所の設定については、今後必要な事業であり、廃止・凍結というのはどうかと思う。

### 【事務局】

- ・サポーター活動について幼保係としては廃止・凍結という判断であったが、少し検討させていただきたい。保育園の中で活動をするにあたり、事故などへの対処について課題があったため中止となった。
- ・子育て家庭避難所の設定については、各学校で運営していくなかで、その場で柔軟な対応をしていくことを想定している。

### 【斎藤委員】

- ・サポーター活動事業の内容を教えてください。

### 【事務局】

- ・保育園・こども園の運営に、保護者以外の地域の方、子育てを応援したい住民が関わられるようサポーター活動の実施を検討していた。実際に、保育園の畑を手伝うよ、という方はいらっしゃった。ただ、保育園の中で、職員ではない方が活動するという点に課題があったため実施していなかった。

### 【石垣委員】

- ・保育に携わる部分では、事故を考えるとやはり無理。掃除や庭の手入れなどは可能。ただ、現実にはそれが集まるのかは疑問がある。

### 【鈴木委員】

- ・保育士の負担軽減という意味で、掃除や布団の片付け、食事の片付けなどやれることはいっぱいあるのでは。

### 【石垣委員】

- ・それは、衛生面を考えると難しい。

### 【事務局】

- ・会計年度職員で保育補助という職がある。庭の草むしりとか、そういうことはやってもらっている。

【土岐委員】

- ・退職された方など保育士の資格を持っている方に声をかければ、経験もあってよいのではないか。それも難しいのか。

【事務局】

- ・ボランティアという身分が曖昧で、何かあったときに困るという課題がある。

【中村委員】

- ・例えば、給食のお手伝いだと、（年齢の）大きいクラスになると、ボランティアの手を借りなくても、先生と一緒に子供が動いてやれる。どこまでボランティアにやってもらうかなどは受け入れ側の難しさがあると思う。

【石垣委員】

- ・その通りだと思う。来られる方の自覚というか、ボランティアの場合、職員のように時間通りに来てくれるのかもわからないので、結局必要な作業には職員を配置するということになる。

【石渡委員長】

- ・今の話を聞く限りは、サポーター活動については、第2期計画では、事業として掲げたもののいろいろ問題があって、未実施に終わった。そして評価・検討の結果、廃止・凍結にした、という認識でよろしいか。

【事務局】

- ・皆さんがご心配されている保育士の負担は、保育補助を増やすなどして、軽減するように取り組んでいきたい。それとは別に、畑を見てあげるよ、などの声かけがあれば、廃止・凍結としたからやらないということではなく、引き続き地域の方と交流はしていきたい。

【石渡委員長】

- ・避難所についてはどうか。

【事務局】

- ・避難所については、実際に災害等が発生したときに、避難所がどうなっているのかによると思う。私が高齢者福祉課だった際に、あらかじめ小さな事業所と協定を結んだりしたが、やはり受け入れ側も、なかなかうまくいかなかった部分もあった。臨機応変なかたちで運営していくのが望ましいと考えて、廃止・凍結とした。

【鈴木委員】

- ・臨機応変な対応は必要だと思う。ただ、避難所を設置する際に、子育て家庭に配慮する、という文言をどこかにいれていただきたい。赤ちゃんを抱えた人が、周りに遠慮しながら、ということになってしまうので、子育て家庭が安心して過ごせるように、決まり事を用意してほしい。

【石渡委員長】

- ・5年前の台風の時に、公民館・コミュニティセンターが避難所になった。同時に、南総文化ホールも避難所になっていたが、そのどちらにも入らず、外に立っている親子連れがいた。その家族がいつも元気な広場にきている方だったので、どうしたのか尋ねたところ、中が男性ばかりで入りづらい、などと言っていた。元気な広場を開放できればいいのにと考えた。その後、こども課とも話をしたが、それがここにある状況にあわせて対応するということになるかと思う。

今回の、能登半島の震災でもそうだが、今避難所の運営については、女性や子育て家庭に配慮するというようになっており、日本全体でそういう方向になっている。そのなかで、館山としてもできることはあると思う。

【押元委員】

- ・避難所について、障害のある子育て家庭への対応についてどう考えていますか。

【事務局】

- ・障害の程度などにもよると思うので、普段から関係機関と打合せをしながら臨機応変に対応していくしかないと考えている。

(2) 館山白百合こども園の幼保連携型認定こども園化について

- ・事務局（幼保係長）、館山白百合こども園理事長（石垣委員）概要説明

<質疑応答>

【鈴木委員】

- ・現状1、2歳の3号認定はお断りしている現状か。まだ増えそうな状況か。

【石垣委員】

- ・今年度からポツポツと増えている。新しい定員くらいを期待している。

■その他（報告）

(1) 公立幼稚園の学区廃止について

- ・事務局（幼保係長）概要説明

【斎藤委員】

- ・通園区域について、保護者の中には、地元の幼稚園に通えなくなるのではないかという心配がでてきている。居住地は関係なく、定員以上の申込があった場合、抽選になるという理解でよろしいか。

【事務局】

- ・アワーズさんを想定しているということであれば、私立なので、市の設定した学区に関係なく、もともと通園できる。そのため、アワーズさんに行きたいという方を止めることはできない。

【斎藤委員】

- ・公私連携ということで、そういうことを配慮してもらえるのか思って聞いていたが、そうではないのか。

【事務局】

- ・あくまでもアワーズさんの考え方による、ということになる。

【斎藤委員】

- ・例えば、いま北条学区に住んでいて、アワーズ以外の幼稚園に入りたい、となったらどこに行くという想定をしているか。

【事務局】

- ・幼稚園であれば、館山幼稚園、豊房幼稚園、那古幼稚園に通うことが想定される。こども園であれば、九重こども園、船形こども園、房南こども園が想定される。

【鈴木委員】

- ・今でも、中央保育園に入れなくて、北条地区の方が、房南に来ているということがある。そうすると、小さい子供を抱えている人が余分に行ったり来たりしなければならない。負担が大きいのが、その辺りへの配慮はできているか。  
定員を超えている場合は抽選になると思うが、その際に居住地や通勤場所を配慮しているのか。

【事務局】

- ・幼稚園の1号認定についてはないが、保育園の方であれば調整はある。保育園に入る際は、勤務時間などを点数化して保育が必要な得点が高い人から入れる。そこに居住地の得点はないが、希望している園が近いから、という点は希望に添えるように極力はしていきたいと思っている。

【斎藤委員】

- ・新しいところに、皆入れたいと考えているのでは。希望が偏った場合、職員の配置とかは大丈夫なのか。

【事務局】

- ・入園募集が10月、11月にある。職員の配置が、公立園の職員の配置ということであれば、その募集の状況を見て、ある程度の調整はできる。

【斎藤委員】

- ・場合によっては休園になるかもしれないということか。

【事務局】

- ・全く子供がいなければそういうことになるが、現段階ではそのような想定はしていない。

【斎藤委員】

- ・今通園しているこどもを転園させることは考えにくいですが、新しく入園を考えている親は、新しい園に希望が集中する可能性があるので、ある程度の想定はされておいたほうがいいのではないか。

【古谷野委員】

- ・入れるかどうかは、抽選になるということだが、それは皆知っているのか。自動車の運転免許を持っていないから、園の近くに家を買ったという知人がいる。

【石渡委員長】

- ・この通園区域の廃止というのは公の文書か。既にどこかに出ているのか。

【事務局】

- ・通園区域の廃止というのは9月か10月の広報に載せている。

【古谷野委員】

- ・住所によって優先されないということがわかったら、ショックを受ける人がいる。

【石渡委員長】

- ・南房総市の人が館山市の幼稚園を利用したい場合は、どうなるのか。

【事務局】

- ・私立のこども園であれば、南房総市の人でも入れる。  
アワーズさんに関しては、北条幼稚園と中央保育園の受け皿的な役割を担ってもらっている部分があるので、その辺は、配慮していただきたい、という要望は伝えようと思う。

【中島委員】

- ・アワーズに入る基準は、どのようなものか。

【事務局】

- ・まず、公立幼稚園については、管理規則があって、抽選により選定することになっている。抽選方法は園長が決める。昨年度は北条幼稚園の入園希望者が多くなったらくじ引きで決める予定だった。実際は入園希望者が想定よりも少なく、全員が入園できた。アワーズさんについては、そういうやり方は聞いていない。先方の園長や事務局長に聞いた話では、各家庭の事情を聞いた上で決定するとのこと。居住地や車の有無について配慮してもらえるかはわからない。

【清宮委員】

- ・アワーズの説明を聞いてきた。  
1号認定は、定員を超えた場合は、一人ひとり面談して決めていくと聞いている。2，3号は他の保育園と同じように入園調整を行う。

【事務局】

- ・今回の通園区域の廃止については、あくまで公立園の1号認定のこと。1号認定は現在の北条幼稚園を含めても市内で1学年あたり70～80人。残る公立園は館山・那古・豊房の3園。その公立園で偏ることは想定していない。幼稚園が、どんどん廃止・休園になってきているなかで、保護者の選択肢が広がればよいと考えて、このようにさせてもらった。

【石垣委員】

- ・車を運転できない方がいるという事例が出ていたが、うちの園では通園バスがあり、そういったニーズにも応えられるようにしている。

【石渡委員長】

- ・今後館山市の幼稚園・保育園の状況が変わっていくというところで、保護者の方にどういう選択肢があるのか、これからどう変わっていくのかが漏れなくきちんと伝えられるような方法を考えてほしいと思う。

■質疑・意見交換

【鈴木委員】

- ・各園、小学校に協力してもらって、きれいな海の絵が126名分集まった。10月5日まで渚の駅で展示しているので、ぜひ見てほしい。

【高橋委員】

- ・第2号議案について、担い手や該当者が減ってきている中で、廃止・凍結の判断はとても重要になっていくのではないかと思います。街としてどうしていきたいかと

いうコンセプトをブレずにもって事業を進めていくのが大事ではないかと思った。

- ・幼稚園についても通園区域の廃止は、市全体としてはメリットがあるということを各地域の人にきちんと伝えることが必要。イオンタウンとしても子育て支援に協力できることはしていきたいと考えている。
- ・地域の人からイオンタウンに映画館がほしいという要望があり、9月から映画上映のトライアルを始めている。27日、28日、29日の3日間関係者を無償で招待したい。3歳以上、低学年くらいまで子どもを対象としたパウパトロールという映画。人があまり集まっていないので、協力をお願いしたい。

#### 【中島副委員長】

- ・サポーター活動は、廃止になってしまっているのかと思っている。スクールボランティアの方は協力があつたはずなので、課を超えてそのボランティアの方を取り込めたらいいのでは。
- ・子育てサロン「どんぐり」を図書館で開催する。目的は、子供に本を選んでもらうだけでなく、一緒に来た保護者の方の本を選ぶ時間を作りたいということから。お孫さんがいてもいなくても就学前のお子さんの保護者の過ごし方に興味があればぜひ参加してほしい。

#### 【教育部長】

- ・幼稚園・小学校ではマイスクールボランティアという制度で、地域の方に草刈りや授業にも関わってもらっている。10年以上続いていて、今後も縮小ということは考えていない。学校の先生がこれならお願いできるということをやってもらっており、保育園のサポーター活動とは別の動きで進んでいるので、理解してもらいたい。